

## 2018年度事業報告書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所

### 1 事業の成果

#### 財務状況

受託事業中心から自主事業により安定した運営を行うことを目指して取り組んできた。移行期の問題として2017年度の赤字計上があり、2018年度も引き続き厳しい財務状況の中で活動を続けてきたが、1月に基盤強化の特別期間に財政の建て直しを実施した。

特別期間は、以下の成果があり一応の成功を収めた。

財政基盤の健全化については、ようやく自主事業の展開が良い方向に向かいつつあり、安定した財務基盤を作ることができる可能性が見えるところまで来ている。事業分野の広がりも見えてきている。

#### 組織構築の課題

今年度は設立当初から研究所を支えてきた1名が亡くなり1名が加入したことから、21名のメンバーとなっている。4名の新たな会員という目標には到達しなかった。

今後、設立当初のメンバーは高齢化してくるので、組織の継続のためには新しいメンバーを大幅に増やすことが必要となっている。

#### 研究・啓発活動の進展

ビジョンプロジェクトについて研究の枠組みができ、少しずつであるが進捗があった。定期的な検討会の開催や、つくばでの4湖の発表会などの進展があった。

河北潟研究奨励助成を1件採択した。

#### 河北潟自然再生協議会

河北潟クリーン作戦実行委員会、湖面利用協議会、河北潟自然再生まつりを軸としての実践的な取組をおこなった。

#### 地域連携の広がり（企業・団体・NPOとの連携）

流域連携を目指し、前年度3月に行った「河北潟の流域連携を考える」セミナーにご

参加いただいた 5 団体あてに「河北潟・大野川流域生物多様性協議会（仮）の設立のための呼びかけ」文書を 1 月に送信した。

クリーン作戦に対して 2017 年度より多くの企業協賛が集まった。

#### 自主事業の展開

##### <生きもの元気米>

2018 年産の生産量は、6,519kg となった。このうち 369kg は研究所で生産した。

田んぼに生息する生きものについては、農薬不使用を継続している田んぼでは明らかに赤とんぼのヤゴが増えた。

生きもの元気農産物として、元気米がゆ、レンコンを販売した。

##### <すずめ野菜>

2018 年は約 60 種類の野菜を生産した。

##### <金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ>

金沢駅西口のイベント広場を会場にしたマルシェ全 33 回実施した。

##### <河北潟カレンダー>

河北潟カレンダー2019 制作部数 650 部（うち名入れ 250 部）

##### <ネットショップについて>

2018 年度は以下のネットショップで販売を行った。

- ・河北潟湖沼研究所のお米屋さん
- ・すずめ野菜
- ・おこめナビ

このうちメインは生きもの元気米等の米を主に販売している河北潟湖沼研究所のお米屋さんであるが、こちらは現在リニューアルに向けて作業を進めている。

##### <河北潟干拓地農村環境保全活動>

グリーン・アース農地・水・環境保全組織より、農地・水保全管理支払交付金における農村環境保全活動に係る計画策定業務を受け、現地調査および生態系保全計画の提案をおこなっている。河北潟干拓地において、農地と生態系を守る先進的な営農を実施する上で、より能動的で具体的な計画を策定することを目的としている。

防風林帯、圃場の外来植物、野ネズミの捕食者であるノスリなど猛禽類の生息数調査、カモ類調査、建設された太陽光パネルの影響をみるための鳥類調査、沈水植物の増殖実

験などを実施している。

#### <県植生保全管理事業>

本事業では、河北潟干拓地を中心に植生保全を通じた水質浄化の調査研究、環境啓蒙活動を行った。具体的には以下のような事業を行った。

- ・西部承水路緩傾斜護岸におけるアサザの補植と、その後の経過観察。
- ・干拓地排水路でのチクゴスズメノヒエやセイタカアワダチソウ等外来植物除去活動と、
- ・河北潟 50 地点での（西部承水路、東部承水路、干拓地内の排水路含む）沈水植物調査。
- ・ヨシ原保全のためのヨシ刈りイベントの実施。
- ・観察しながら英語も学ぶ観察会と水辺の植物を利用したクラフトづくりワークショップの実施。

#### 寄付金事業について

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様より「eco 保険証券・Web 約款選択件数に応じた寄付活動」に基づく寄付金 165000 円を昨年度に引き続きいただいた。

新たな寄付窓口として、ホームページ上でクレジットカード決済または銀行振込による寄付ができるページを設置しており、1 件の匿名による寄付があった。

#### 河北潟研究助成

2019 年は 1 件の応募があり、68 千円の申請に対して、gooddo 積み立て残金 57,897 円+1 万円で対応した。

#### 助成金事業について

##### <地球環境基金>

「河北潟の水辺保全活動をすすめるための流域がつながる仕組みづくり」との名称で 2017 年度より 3 年間の予定で活動をすすめている。河北潟およびその沿岸部はもちろん、流入河川の上、中流域住民に河北潟や環境保全活動にかんする PR を行い、流域全体で水の流れに対する意識の向上と、環境保全に取り組む仕組みを作ることを目標とする。

2018 年度は 300 万円の助成金をいただき、活動を実施した。

##### <未来につながるさと基金（キヤノンマーケティングジャパン）助成事業>

初年度に引き続き主に七豊米の活動に関するプログラムを 5 回実施した。七豊米田んぼでは田植え、観察会、稲刈りイベントを実施し、こなん水辺公園で食べられる草花さがしと、写真教室イベントを実施、のべ 110 名が参加した。七豊米田んぼでは、日常の

栽培やイベント運営でボランティアや理事の方々にご協力をいただいた。

#### <機関誌、通信>

機関誌「総合研究」の発行が遅れているが、2018年3月発行分として21巻の印刷製本が仕上がった。

かほくがた通信も制作が遅れており、年4回発行するうちの1号(vol.24-1)のみが発行されている。

#### <こなん水辺公園>

前年度までに引き続き、来園者に対し自然解説を行う業務を実施している。また「こなん水辺公園へようこそ」というfacebook ページで、園内の自然や動植物について紹介している。2018年度は5名のメンバーが交代で行った。

#### <外来植物除去活動>

河北潟の水辺に繁茂する外来植物チクゴスズメノヒエ除去活動を、今年度も11月に関係機関と連携し、参加を呼び掛けておこなった。

#### <河北潟クリーン作戦>

第24回および第25回河北潟クリーン作戦実行委員会の事務局として活動した。

#### <河北潟セミナー>

地球環境基金助成金を活用し2回実施、計26名が参加した。

1回目は6/12(火)に実施、小松英司氏(明治大学法環境法センター/株式会社環境創生科学研究所)を講師に「湖沼流域モデルを活用した水質長期変動の解明と流域管理の可能性」をテーマにお話しいただいた。

2回目は2/22(火)、尾上健治氏(環境アセスメント学会)、奥川光治氏(富山県立大学工学部環境工学科准教授)を講師として「河北潟流域再汽水化プロジェクト」をテーマに実施した。

#### <七豊米>

2018年は、のべ163名(体験含む)で446時間作業し、422kgの米を収穫した。

#### <プロボノ>

サービスブランドのプログラムである「風呂里プロボノ」をパナソニックの協力をいただき、パナソニックの写真~なるプロボノチームに、生きもの元気米をはじめとする自主事業の展開におけるマーケティング調査を実施していただいた。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
研究・広報及び日常活動	河北潟の自然環境等の研究、 広報誌の発行、通信活動等、 研究助成	2018.4 ~ 2019.3	河北潟及 び周辺	7	全国の研究者、 地域住民等 110 万人	1,497
ふるさと基金助成事業	水田での体験活動	2018.4 ~ 2019.3	河北潟	7	地域住民 110 名	500
地球環境基金助成事業	流域連携による環境保全	2018.4 ~ 2019.3	河北潟流 域	10	地域住民等 351 名	3,000
こなん水辺公園協働事業	河北潟とこなん水辺公園の自 然について来園者らに解説	2018.4 ~ 2019.3	金沢市	6	金沢市民その 他 50 万人	516
地域連携事業	干拓地における水辺と農地保 全活動	2018.4 ~ 2019.3	河北潟干 拓地	5	地域住民等 10 万人	3,039
クリエイティブ事業	地域環境保全のためのイベン ト、出版物の普及事業	2018.4 ~ 2019.3	河北潟	4	地域住民等 100 人	760
地域循環社会事業	環境保全米、循環型の野菜の 生産拡大	2018.4 ~ 2019.3	全国	4	地域住民等 10 万人	2,589

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
受託事業	調査受託等	2018.4 ~ 2019.3	石川県内	2	1,562